

令和5年度 第1回 学校関係者評価委員による主な意見および今後の手立て

別紙

岐阜県立下呂看護専門学校

評価項目	評価項目ごとの意見	意見に対する今後の手立て
I 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・組織目標を共通理解し、全教職員で意識した取り組みが進められている。また定期的に評価し改善に取り組まれている。PDCAがしっかり行われていてよい。 ・教職員の意見を反映させる形で組織目標の設定がされていることで、目標の理解、共有が十分されており、全員で課題解決に取り組まれている。 ・新・旧それぞれのカリキュラムに合わせた目標設定ができています。細やかな委員会・係等を作り、目標達成に向けて取り組んでいることがわかる。 ・校長先生を中心に教員他職員が問題解決に取り組める対策となっている。 ・教職員が一体となって取り組んでいると感じる。 ・本委員会を含めて、例年の取り組みが恒例行事のように形骸化しないようにする工夫も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織目標をはじめ各委員会目標等について、教職員間で共有し課題解決に取り組んでいる。定期的な評価による取り組みの見直しや教職員間の意見交換を活発に行い活気ある組織運営を継続する。 ・新型コロナウイルス感染症の流行により、学校運営に様々な変化が生じたが、以前の状況に安易に戻すのではなく、創意工夫を凝らし、オリジナリティのある学校運営を目指す。
II 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の看護実践能力自己評価と比較すると、就業先による評価が低い（特に令和3年度）。また「卒業生への課題と当校への要望」からもわかるように、社会人基礎力、コミュニケーション能力を身につけることは大きな課題。 ・学生からの評価など、検討し改善に繋がっていると思う。看護技術到達度の評価の明確化が図れるように引き続きお願いしたい。 ・新・旧の両方のカリキュラムがある中での学校運営において、学生を第一に見通しを持たせたり、一人ひとりの学習の様子を確認しながら指導にあたられている。 ・新型コロナウイルス感染対策の中で、講義、実習等の計画、実施は大変だと思う。又新カリキュラムへの実施に向けた準備や調整もありご苦労様です。 ・新カリキュラムとなり学習方法の検討などが強化され、学生の主体性を引き出し知的好奇心を刺激する教育の工夫がなされており、評価できる。また、従来から課題となっていた時間割の早期提示についても、目標達成されたことは大変評価できる。今後も継続されたい。一方で、学生は課題の多さを負担に感じており、科目間の進捗や課題の確認など、学生の学習意欲を低迷させないような取り組みを検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から新カリキュラム導入にあたり、社会人基礎力の習得についてもHRなどカリキュラム外の時間で身につけることができるよう取り組んでいる。学生の社会人基礎力の習得については定期的に自己評価を実施してもらっている。当番業務や各係業務、自治会活動などにおいて引き続き社会人能力が習得できるように仕向けていく。 ・卒業時技術到達度の評価方法についてはカリキュラム委員会を中心に夏季休暇を目途に検討していく計画である。 ・主体的に学ぶ学生の育成のための教育方法としての事前課題が各教員間で可視化できるような一覧表を作成した。各教員が課題提示の前に、学生の課題への取り組み状況を確認し事前課題を提示している。今後も継続していく。
III 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の確保については、種々努力してみえるが、定員には達していないので引き続き取り組んでほしい。国家試験が2年連続100%合格していて、受験対策の効果が出ていると思う。 ・下呂看護学校の少人数で手厚い指導を受け入れられる環境は、大学にはない大きな強み。国家試験合格率高く維持できていることにつながっている。 ・国家試験の全員合格ができていたことは素晴らしい成果であると思う。入学生の確保という面ではいろいろ工夫した取り組みができるとよい。 ・国家試験合格率100%、優秀な学生の確保、学習指導の成果と思う。今後も継続して欲しい。 ・中学生でも看護体験へ参加するなど看護師への興味がある子はいる。高校生ほどは進路実現へ近くない為、生徒から動く事はあまりないので、学校側からアピールしてみると良いと思う。 ・学校の良さを伝えて、地元など県内の学生の入学増加を期待する。卒業生に対するアンケート結果をふまえ、専門学校卒業者の実践能力の強みを活かし、入職後の自信になるよう繋がらせたと思う。 ・入学生の確保、卒業後の支援はどの学校においても課題であり、特にコロナ禍においては、できることも限られた背景があり、苦慮されたと思う。社会活動の再開を受け、引き続き、学生確保に向けては、学生アンケートの意見など参考にICT活用など新たな取り組みを工夫されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は入学生確保を重点課題とし取り組んでいる。6月には県内高等学校訪問、8月にはオープンキャンパスを開催予定である。また、進学ガイダンスへの参加、ICT機器の活用、ホームページ更新等を継続しながら、受験生への相談に応じると共に本校の特徴についてアピールする。 ・地元の小中学校に対する働きかけは出前授業の案内に留まっている。ご意見にあるように、学校からアピールする機会や方法がないか今後検討する。 ・国家試験対策については国家試験担当を中心に、担当教員制による支援を行っている。日頃の講義・実習の学修支援や模擬試験等、個々の学生の特徴に合わせ支援を行う。 ・卒業生支援については卒業生交流会等を継続する。また、就職先との情報交換や連携を図りながら、卒業生の就業支援を行う。
IV 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について様々な取り組みが行われており、一人ひとりを大切にしていることがわかった。1年生から目標をもった学びができるよう、これからも充実した進路指導を行ってほしい。 ・スクールカウンセラーによる相談を今後も続けられ、学生のメンタル面におけるケアを行ってほしい。 ・日常生活の中でも社会人基礎力向上につながりそうな事例を挙げ、視点を持てるように助言できないか。就職試験に対する支援への比重が大きいと感じる。 ・コロナ禍で、制約されていたことが緩和されるので、レクリエーションや地域との交流の場を増やし、コミュニケーション能力、社会人基礎力の向上などに対応されると良い。 ・全教員で気を配り、国家試験対策や面談等きめ細やかな対応がされていることは良い取り組みと判断できるが、心の不安定な学生が増えている一方で、カウンセリング利用状況や、休学者・退学者の増加など、原因追求と対策を検討されたい。 ・アンケートでは、臨地実習時の勉強時間がとても多い回答だった。記録もあり多いのだろうと思うが、緊張の度合いも高いと思う。過密な学習内容の中、大変とは思いますが、実習前後の授業時間の中で記録の整理、学習時間の確保ができると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職支援は概ね取り組みが定着してきたため継続する。今後は学生の満足度やニーズを把握しつつ、支援の充実化を図る。 ・学生の心の支援については、昨年度から外部の相談窓口を案内している。更に相談体制の充実を検討中である。また、学生がリラックスできる環境の確保に向けて、現在、学生の休息スペースを増築中である。 ・学生交流の場については、学生自治会を中心とした球技大会、縦割り交流会、各委員会活動等、自主的な活動が活発化している。今後も活動の継続を見守っていきたい。 ・カウンセリングの利用については、日程を授業時間割表にも記述して周知している。申し込みは学生更衣室内にある『お悩み相談箱』に投函し、教務主任のみが把握・調整をする等、学生が利用しやすいよう見直し取り組んでいる。休・退学者の状況については、個々の学生にとって今後の進路や学業の進め方について、より良い方法を共に考えている。不安や悩み相談に関する情報発信や、個別に呼びかけを行う等、きめ細やかなサポートを行う。 ・令和4年度の学校評価結果は主に旧カリキュラムでの取り組みを反映している。新カリキュラムでは教育目標などを見直し、社会人基礎力の強化も含めた内容としているため今後の変化を捉えていきたい。

<p>V 教職員の 育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上のため、研修会や授業研究、参観、ペア制など工夫されていてよい。先進的な取り組みをされているとのことで、どんどん他校などに発信してほしい。 ・多忙な中、全職員の研修参加や、研究への取り組みなど率直に素晴らしいと感じる。 ・引き続き、学校授業参観日を勧め、今後も交流を深められると良い。教員個々の負担を避けるためにもペア体制は大切だと思うので勧めしてほしい。 ・コロナ禍の影響はあったが、授業研究や授業参観への取り組みにより、全体の質向上は基より、個人のスキル向上が積極的に図られている。今後の継続とその成果を公に発表する機会をつくるなど、学校の知名度アップにも繋がるとより良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上のため、研修会への参加、授業参観・研究、教員のペア制などの取り組みを継続する。 ・教員のペア制には昨年からの取り組み有効であったが、教員により取り組みに差があったことや、実習では、担当ペア制での支援体制を意識できなかった。現段階では、反省点をふまえ、教員ペア制に組み込み、お互いに高め合い、成長し合える職場風土を作っていきたい。
<p>VI 管理運営 ・財政</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予算執行や危機管理の取り組みなどしっかり行われている。 ・決算で人件費が前年度に比べ一千万円近く減少しているが、令和5年度予算では令和3年度の額に戻っているのは何故か。職員数の変更はないと思われるが。 ・危機管理能力は自分を守る事だけでなく、看護にもつながる。災害時「自分はどう動くべきか」をしっかり想定しながら訓練・対策をすると良いと思う。 ・危機管理（人権、情報管理、災害対策、感染管理等）において、社会情勢の変化に合わせてルールの見直し、再整備をすすめられるとよい。 ・適正だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の決算額について、当初お配りした資料は見込み額となっていたため、委員会当日に決算確定額に修正させていただいた。なお、令和4年度から補助職員が1名増加している。 ・危機管理について、ご指摘も踏まえ、実践的な訓練・対策とするとともに、引き続き、社会情勢の変化に合わせて対応していく。
<p>VII 施設設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和59年に開校で老朽化はあると思う。トイレの洋式化など改善に取り組まれているようだが、今後も職員や学生が学びやすく生活しやすい学校にしていけると良い（予算がつかないと・・・になるが）。 ・和式トイレを様式化にされる予定で良い。 ・毎年計画的に整備、修繕等に取り組んでいる。このことが、職員や学生のQOL向上につながると良い。 ・老朽化は仕方がないが改善できるように努力していると思う。 ・施設設備等の老朽化については、学生の意見を反映しながら、計画的に予算化し、修繕に取り組まれており評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 学校棟内部改修等工事により、トイレ、調理室他改修工事を実施中である。工事期間中は学生の聴講に影響が出ないような配慮を工事関係者と調整している。工事終了予定は令和6年1月12日の予定である。
<p>VIII 広報 社会貢献 地域活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下呂地域唯一の看護学校として、地域に根差した学校づくりが展開されており、地域の協力も得やすい環境が築かれている。この関係性を維持され、学生確保に向けて、更なるPR活動の創意工夫を図られたい。 ・地域の学校としてのボランティアや出前授業など、コロナも収まってきているので積極的にできるとよい。学校の良さや努力していることを発信していけるとよい。 ・地域でのボランティア活動等で、学校の存在をPRされていて良いと思う。今後も継続してください。 ・ホームページの更新が積極的に行われているのがわかる。進路を決める際などにホームページを参考にしている人が多いようなので、今後も維持に期待する。 ・ホームページが適宜更新され、閲覧しやすいように工夫されている。小中学生への出前授業の応募がないようだが、看護職に興味を持ってもらえるように、働きかけを継続して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は現時点でボランティアの要請が7件ある。感染対策の緩和に伴い、学生の参加数も増加している。学生が地域へ赴き社会へ貢献しつつ、見識を広めることができる貴重な機会でもあるため、今後もボランティアに関する情報提供や支援を継続していく。 ・地域住民に向けた学校の公開については、社会情勢も踏まえながら今後検討していきたい。 ・HPは適宜更新し、最新の学校の様子についての発信を継続する。
<p>IX 独自項目 寄宿舎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎での安全・安心への努力がされていることは良いと思う。寄宿舎生活の意識調査で3年生と1・2年生の満足度の差が気になった。改善され、1・2年生も満足度が高まると良いと思う。 ・人間関係の構築やルール・規則を守ることは社会人になっても続く事。寮での生活が「不満」になって終わってしまうのではなく「今後につながる」という視点を持てるようになる、自身のステップアップになるのではないかと。 ・全室個室が継続されるとよい。 ・学生からの意見に対して、学校でできること、学生自治で行うことのすみ分け整理など、学生自治の主体性が発揮できる素地を提供されてはと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の満足度に影響した要因に対し、寮の規則の見直しを行った。学生の安全を守るために学校が決定する項目はあるが、学生と共に考え、パソコン利用の許可、弁当業者の変更を行った。感染予防対策については、コロナウイルス感染症が5類になったことに伴い制限を緩和している。これらの取り組みの効果をみていきたい。 ・寄宿舎で生活する学生は18歳以上の成人学習者であり、また、生活者を支える看護師の卵であることから、自分達の生活の質改善に向け、学生自らが考え行動できるよう、指導・助言を引き続き行いたい。